一般質問

質問した事項 （登壇順）

鵜浦　昌也 （創生会）	1　市長選挙の結果を踏まえた今後の市政運営 2　市長選挙 3　震災遺構 4　各種世界大会を控えた観光客誘致策
及川　修一 （新　風）	1　観光行政 2　水産振興 3　保・幼・小連携
菅原　悟 （新志会）	1　市役所新庁舎建設 2　新市街地整備事業 3　公共施設の維持管理 4　児童虐待への対応
伊勢　純 （日本共産党）	1　新たな産業振興と雇用確保 2　被災者の住まいの確保 3　市奨学金制度による進学支援
中野　貴徳 （至誠会）	1　放課後児童クラブの現状と今後の方針 2　市内小中学校の状況及び今後の見通し
菅野　定 （新　風）	1　国際交流 2　防災 3　ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり
伊藤　勇一	1　市長選挙及び市議会議員補欠選挙 2　公共施設の建設に伴う維持管理
福田　利喜 （創生会）	1　市長の政治姿勢 2　本市の運営
佐々木一義 （創生会）	1　重点道の駅「高田松原」 2　行政事務の包括業務委託
大坪　涼子 （日本共産党）	1　各地区コミュニティ推進協議会への新しい活動交付金事業 2　高齢者の活動・交流への支援 3　母子保健事業の推進 4　子育て支援の新たな取り組み
三井　俊介 （新　風）	1　ミレニアル世代の特徴と、施策展開 2　就学前の保育、幼児教育環境 3　交通まちづくり
畠山恵美子 （翔英会）	1　ダイバーシティ（多様性）及び男女共同参画社会の実現と女性活躍の推進、ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標） 2　協働によるまちづくりを推進するコミュニティ組織の在り方及び総合計画における地区別計画とコミュニティ活動推進補助 3　行政組織の改革（案）により、新たな市民協働部及び地域振興部が担う諸施策
藤倉　泰治 （日本共産党）	1　行政からの情報提供など、協働のまちづくり 2　公共施設の災害復旧と今後の活用方針 3　本市の財政状況と今後の課題 4　本市の林業振興及び担い手支援

震災遺構内の見学は

一部施設でH33年度から

鵜浦 昌也

（創　生　会）

質問　交流人口の拡大に向け、高田松原津波復興祈念公園内の震災遺構をどのように活用していくのか。

答弁　公園内には5つの震災遺構がある。タピック45は津波の威力を示す遺構、旧下宿定住促進住宅は津波の高さを示す遺構、旧気仙中は日頃の防災教育により生徒全員が助かったという教訓を伝える遺構、奇跡の一本松と旧ユースホステルは震災から復興を目指す希望の象徴として、それぞれ重要な意義を持っている。今後も、来訪者に大震災と被災地のリアルな姿を感じてもらえるような活用を図っていきたい。

質問　一部の施設は内部に立ち入り、見学できるよう改修する方針のようだが、いつ頃になるのか。

答弁　祈念公園が来訪者に魅力ある公園と思ってもらうためには、震災遺構への立ち入りが有効と考えている。中でも、タピック45と旧気仙中の内部に立ち入りができるよう、平成31年度に調査、設計などを行い、32年度に工事を行う予定にしている。実際に見学が可能となるのは33年度になると考えている。

市長選結果で反省は

質問　先の市長選挙の結果を踏まえ、これまでの市政運営で反省すべき点は。

答弁　市民に行政の取り組みが伝わりにくかったことや復興後の財政状況への不安を感じている方がおられたものと受け止めている。今後は、より分かりやすく、正しい市政の情報を丁寧に伝え、対話の機会をできる限り設けていきたい。

旧気仙中学校

観光客の誘致策は

質問　各種世界大会を控えた観光客誘致策をどのように考えるか。

答弁　これまで、インバウンド観光への対策として多言語案内パンフレットや観光案内看板、ＷＥＢサイトなどの制作をはじめ、市認定通訳ガイドを認定して英語や中国語の通訳案内を行ってきた。

今年9月のラグビーワールドカップや来年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、今後も観光客受け入れの環境整備を進めていく。

杉の家はこねの有効利用は

修繕しながら検討する

及川 修一

（新　　風）

質問　新しい施設が完成する中、老朽化が目立つ「杉の家はこね」に障がいを持つ方の作品を展示し、ノーマライゼーションという言葉のいらないまちのランドマークとして活用できないか。

答弁　現在の「杉の家はこね」は、民泊体験の学生などを中心に活用が多くなっているが、整備から30年以上が経過し、老朽化しているので、修繕しながら、施設維持に努める。関係者から活用方策の提案をいただいており検討を進めていく。

保・幼・小連携について

質問　保育施設から小学校へスムーズに入学してもらうため、保・幼・小連携事業の取り組みが大切とされているが、本市の取り組み状況はどうか。

答弁　小学校入学にあたって、子ども別に作成された保育要録を基に、保育施設から小学校側に丁寧に伝えている。保育士と小学校教諭を交えて情報の共有を図り、子どもの小学校生活がスムーズにいくように配慮している。

質問　幼児期から児童期への移行で、特に気になるのは、小1プロブレムだと思うが、本市の実態はどうか。

答弁　8町にそれぞれ保育施設と小学校が設置されているため、慣れた友達と一緒に比較的安心して過ごしている。

水産振興について

質問　広田町根岬地区にアオノリの陸上養殖事業の新規参入計画があるようだが、どのような内容か。

答弁　水産物の陸上養殖は、気候変動に左右されにくく、生産性や品質の向上が見込まれ、地域雇用と所得の安定が見込まれる。障がいをお持ちの方を雇用しながら、需要の多いアオノリを養殖しようとする企業からの申し出があり、事業開始に向け漁協と協議を進める。

質問　気仙川河口の導流堤は、広田湾内の良好な淡水流入に必要を感じない。県との協議をするとしていた建設については、どのようになっているか。

答弁　広田湾内の流向や流速の調査を行うことにしている。その上で、県や漁協と導流堤の必要の有無など検討協議を重ねていく。

活用が期待される杉の家はこね